

国際共同研究分野

Division of International Cooperative Researches

客員教授	Rungpetch C. Sakulbumrungsil	Professor	Rungpetch C. Sakulbumrungsil (Ph.D)
客員教授	Nguyen Minh Khoi	Professor	Nguyen Minh Khoi (Ph.D)
客員教授	Du Jinhang	Professor	Du Jinhang (Ph.D)

◇研究目的及び概要

目覚ましい発展を遂げた現代西洋医学においても治療に難渋する疾患が多く、天然物を活用した伝統医学に関する研究成果や臨床効果に期待が寄せられている。伝統医学に関わる研究を高い水準で維持・発展させるためには、最新の研究方法論や天然物に関する情報交換が必要である。和漢医薬学総合研究所は天然物の研究を発展させるために、3カ国・4機関との間に国際協力拠点（ICC）を形成するとともに、8カ国・地域16機関と部局間協定を締結している。

そこで、民族薬物研究センター国際共同研究分野は、各国の大学及び研究機関の研究者と連携して、伝統医学と現代医学を融合した国際共同研究を促進することを目的に、(1) タイ・チュラロンコン大学薬学部や中国・北京大学医学部薬学院との国際協力拠点を通じた国際共同研究の推進、(2) 大学間や部局間協定締結機関とのジョイントシンポジウム、学生交流を通じた国際共同研究の維持・発展を図っている。

◇原著論文

- 1) Ngoc T.M., Phuong N.T.T., Khoi N.M., Park S., Kwak H.J., Nhiem N.X., Trang B.T.T., Tai B.H., Song J.H., Ko H.J., Kim S.H.: A new naphthoquinone analogue and antiviral constituents from the root of *Rhinacanthus nasutus*. *Nat. Prod. Res.*, 33(3):360-366, 2019. doi: 10.1080/14786419.2018.1452004.
- 2) Nguyen D.H., Doan H.T., Vu T.V., Pham Q.T., Khoi N.M., Huu T.N., Thuong P.T.: Oligosaccharide and glucose esters from the roots of *Polygala arillata*. *Nat. Prod. Res.*, 10:1-7, 2019. doi: 10.1080/14786419.2019.1597353.
- 3) Thinh N.S., Bich Thu N.T., Ngoc T.M., Khoi N.M., Tai B.H., Van Kiem P., Van Minh C., Nhiem N.X., Seo Y., Namkung W., Park S., Kim S.H.: Cytotoxic sesquiterpene glucosides from *Fissistigma pallens*. *Phytochemistry*, 172:112255, 2020. doi:10.1016/j.phytochem.

◇活動事業実績

国際協力拠点協定（ICC）

中国)

北京大学薬学院との共同研究拠点事業

和漢医薬学総合研究所は北京大学医学部と2005年に「薬用資源研究における国際協力拠点設置に関する協定」を結び、双方に International Cooperative Center Office (ICCO) を設けた。その後2010年及び2015年2月に再締結し、ICCOを拠点として学術交流を行っている。以下に2019年度の活動実績を列記する。

1) 学術交流

・2019年10月10日：蔡少青教授（北京大学薬学院）が富山大学長を表敬訪問した。富山大学杉谷キャンパスにて北京大学薬学院とのジョイントセミナーを開催し、蔡少青教授が講演した。また、双方の学術交流を図り、ICCを再締結することに合意した。

タイ)

チュラロンコン大学薬学部との共同研究拠点事業

和漢医薬学総合研究所はチュラロンコン大学薬学部と2010年に、双方に International Cooperative Center (ICC) を設置する覚書を締結し、ICCを拠点として学術交流を行っている。以下に2019年度の活動実績を列記する。

1) 学術交流

・2019年6月1日～6月5日：早川芳弘教授（病態生化学分野）がチュラロンコン大学を訪問し、3月に開催予定のジョイントシンポジウムの打合せを行うと共に、ダブルディグリープログラムについても協議した。

・2019年9月17日～12月6日：早川芳弘教授（病態生化学分野）の研究室にてチュラロンコン大学薬学部学生3名を受け入れ、研究の体験実習（インターンシップ）を実施した。

・2020年1月14日～3月31日：早川芳弘教授（病態生化学分野）の研究室にてチュラロンコン大学薬学部から外国人研究員1名を受け入れ、共同研究を実施した。

エジプト)

カイロ大学薬学部との共同研究拠点事業

和漢医薬学総合研究所はカイロ大学薬学部と2011年に、双方に International Cooperative Center Office (ICCO) を設置する覚書を締結した。以下に2019年度の活動実績を列記する。

1) 学術交流

・2019年11月27日：森田洋行教授（天然物化学分野）がカイロ大学を訪問し、カイロ大学薬学部 MESELHY Meselhy Ragab 教授，Essam Abdel-Sattar 教授，Ali Mahmoud El Halawany 准教授と学術交流及び共同研究に関する打ち合わせを行った。Ali Mahmoud El Halawany 准教授とは引き続き共同研究が進行中である。また，Essam Abdel-Sattar 教授と Ali Mahmoud El Halawany 准教授との共同研究成果を一報の論文として報告した。さらに，2019年4月から，Ali Mahmoud El Halawany 准教授の学生を本学大学院医学薬学教育部の博士後期課程の大学院生として受け入れた。